



報道関係各位

2021 年 6 月

Walls & Bridges

壁は橋になる

2021 7.22-10.9
thu sat世界にふれる、
世界を生きる

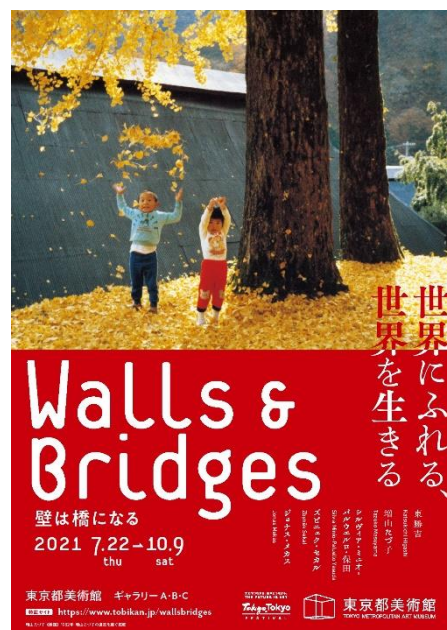
東京都美術館では、企画展「Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる」を 2021 年 7 月 22 日（木・祝）～10 月 9 日（土）に開催いたします。当初、2020 年夏の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会期を変更いたしました。

本展でご紹介するのは、表現への飽くなき情熱によって、自らを取巻く障壁を、展望を可能にする橋へと変え得た 5 人の作り手たちです。彼らにとって制作とは、生きるために必要な行為であり、文字通り精神的な糧というべきものでした。

詩人の吉田一穂（よしだ・いっすい）は「熱情とは砂すら燃やすものだ」と詠いましたが、彼らのひたむきな情熱も驚くべき強さを秘めていたのです。

5 人の生涯に共通するところはほとんどありません。しかし、その異なる生き様から生まれた作品のアンサンブル——絵画、彫刻、写真、映像——には、記憶という言葉から導かれる不思議な親和性があるように思われます。

何ら交わることのなかった個の軌跡が、ともにある世界へと見るものを誘う想像/創造の連鎖。本展が生きるよすがとしてのアートの深みにふれていただける機会となることを願っています。



■お問い合わせ
東京都美術館 広報担当
TEL 03-3823-6921
E-mail: press@tobikan.jp

作家・作品／見どころ**東勝吉 Katsukichi Higashi (1908-2007) ／ 83 歳から描き始めた珠玉の風景画**

木こりを引退した後、老人ホームで暮らしていた東は、83 歳のときから本格的に絵筆を握り、大分県由布院の風景画の制作に没頭。99 歳で亡くなるまでの 16 年間で、珠玉の水彩画 100 余点を描いた。



東勝吉



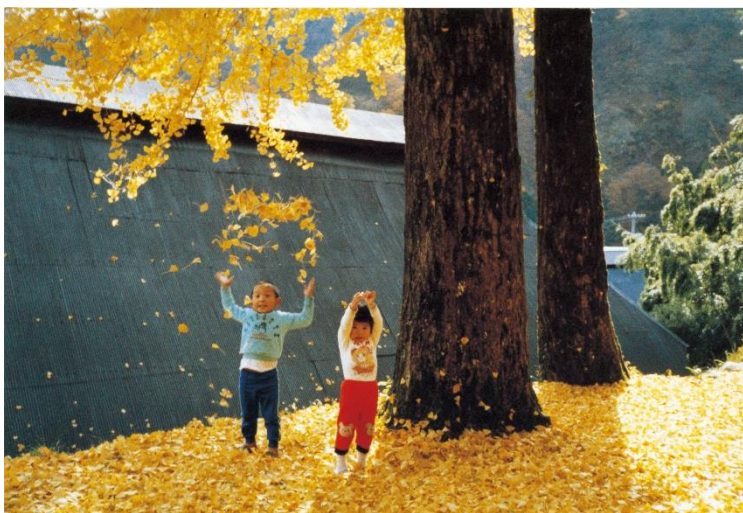
東勝吉《川西から見た由布山》1990 年代？ 由布院アートストック蔵

増山たづ子 Tazuko Masuyama (1917-2006) ／ ダムに沈む故郷を写した 10 万カット

生前「カメラばあちゃん」の愛称で親しまれた増山たづ子。故郷の岐阜県旧徳山村と村民を記録するため、還暦を過ぎてから写真の撮影に挑戦、10 万カットにも上る撮影を行った。村は彼女の没後、ダム建設によって消滅した。



増山たづ子



増山たづ子 1982 年 増山たづ子の遺志を継ぐ館蔵

ジョナス・メカス Jonas Mekas (1922-2019) / 貧困と孤独の傍らにあった「日記映画」

リトアニアの農家に生まれ、難民キャンプを転々とした後、ニューヨークに亡命。貧困と孤独のなか、中古の16ミリカメラにより身の回りの撮影を始め、類例のない数々の「日記映画」を残すことになった。



ジョナス・メカス



ジョナス・メカス《猫のサンシャインに見守られヴァイオリンの練習をするウーナ、ソーホー、ニューヨーク、1977年（「いまだ失われざる楽園」より）》個人蔵

シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田 Silvia Minio-Paluello Yasuda (1934-2000)**/ 敬虔な信仰から生まれた祈りの芸術**

イタリアのサレルノに生まれた。彫刻家であった夫 保田春彦を支え、家事と育児に専念しつつ、寸暇を惜しみ、彫刻と絵画の制作にいそしんだ。敬虔なクリスチャンであった彼女の真摯な制作は、切実な祈りそのものだった。

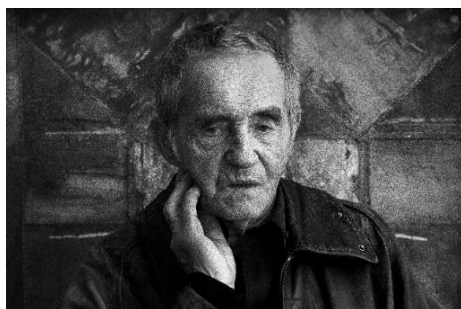


シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田

シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田《シエナの聖カタリナ像とその生涯の浮彫り》（部分）1980-84年
愛媛県松山市・聖カタリナ大学蔵 photo：齋藤さだむ

ズビニェク・セカル Zbyněk Sekal (1923-1998) / 記憶と創造、そして永遠の問い

チェコのブラハに生まれ、反ナチス運動に関わった結果、投獄の憂き目にあい、強制収容所での日々を経て、後年アーティストとなった。40 歳を過ぎて取り組んだ彫刻作品は、名状しがたい存在への問いを湛えている。



ズビニェク・セカル

ズビニェク・セカル 《仮面をつけた仮面》1990 年
個人蔵 photo: Oto Palán**開催概要**

(今後詳細が決まり次第、特設ウェブサイトに掲載いたします)

- 展覧会名 Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる
- 会 期 2021 年 7 月 22 日 (木・祝) ～10 月 9 日 (土)
- 休 室 日 月曜日、9 月 21 日 (火)
- ※ただし、7 月 26 日 (月)、8 月 2 日 (月)、8 月 9 日 (月・休)、8 月 30 日 (月)、9 月 20 日 (月・祝) は開室
- 開室時間 9 時 30 分～17 時 30 分 (入室は閉室の 30 分前まで)
- 会 場 東京都美術館 ギャラリー A・B・C
- 主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
- 観 覧 料 一般 800 円、65 歳以上 500 円
- 各種割引
 - ・ 学生以下の方は無料
 - ・ 83 歳から絵筆を握った東勝吉にちなみ、80 歳以上の方は無料
 - ・ 外国籍の方は無料
 - ・ 身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方 (1 名) は無料
 - ・ いずれも証明できるものをご持参ください
 - ・ 開催中の特別展のチケット (半券可) 提示にて、一般料金より 300 円引き
 - ・ 都内の小学・中学・高校生ならびにこれらに準ずる者とその引率の教員が学校教育活動として観覧するときは無料 (事前申請が必要)

○特設ウェブサイト <https://www.tobikan.jp/wallsbridges>

○問い合わせ先 03-3823-6921 (東京都美術館)

**チラシ画像、作家ポートレート、作品画像のご提供**

展覧会をご紹介いただける場合は、下記の URL より広報用画像をダウンロードの上ご使用ください。

【注意事項】

- ・ 会期中に本展をご紹介いただける場合のみ、ダウンロードいただけます。
- ・ 作品クレジットを必ず入れてください。作品画像のトリミングや文字のせはできません。
- ・ 校正ゲラ等の確認が必要です。press@tobikan.jp に必ず掲載前にお送りください。

画像申請用 URL <https://www.tobikan.jp/plate/3>

※広報用画像は、本 URL に順次掲載いたします。

読者プレゼント（展覧会チケット5組10名様）のご提供

展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用のチケットをお送りいたします。

媒体名、掲載時期、送付先（郵便番号・住所・会社名・担当者名）を press@tobikan.jp にお送りください。
発送は7月上旬以降を予定しております。



本展覧会は、オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるため、多彩なプログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組である「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の1つとして実施するものです。
<https://tokyotokyofestival.jp>